

2024年度ピアレビュー

全般的な指摘とそれらへの対応

勧告 番号	全般的な指摘	対応
1	<p>K1：レビューの形式について、現在の文書レビュー+対面レビューの形式は適切と思うが、対面レビューを1つの資源評価について2~3日間行い、勧告、指摘のあった検討、解析を行って翌日説明するといった反復的なアプローチをとれば、データやモデルについてより詳細に検討できると思う。</p>	<p>レビューの形式、開催方式については、より有意義なものとなるよう、検討、改善していきます。</p>
2	<p>K2：より柔軟なモデリングフレームワークがあれば、多くの評価でメリットが得られると思う。VPAは年齢-体長関係に高い不確実性があるブリには適していないと思われ、Stock Synthesisのような統計的な統合モデルのフレームワークを使用すると、データの不確実性と仮定が結果に与える影響をより堅牢に検討できる。</p>	<p>研究課題（高精度化事業）として、データの質・量に応じた柔軟な資源評価モデル・手法の開発や、統合モデルの適用について取り組んでいます。</p>
3	<p>K3：仮想個体群分析（VPA）では高品質で代表的な年齢データが重要であることを考えると、可能な限り、より調整された統一的な年齢測定プログラムを開発することが有益であろう。</p> <p>マダラなど一部魚種では毎年の年齢査定個体数が非常に多いが、資源評価において年変動をみるにはそこまで多くなくても十分である可能性がある。また、ほかの魚種では非常に少ない。年齢査定個体の妥当な数については調査、検討する必要がある。</p>	<p>研究課題（高精度化事業）として、年齢査定手法の検討、開発、年齢-体長キーの設定方法の開発に取り組んでいます。</p>

T：Steven Teo、K：Peter Kuriyama、Y：山川卓